

第9回

'98選抜女子駅伝 北九州大会

□ 期 日 / 1998年1月18日 (日)
 □ コース / 小倉北区・北九州市役所前—
 八幡西区・北九州プリンスホテル
 折り返し 32.8km

一般・大学の部 5 区間 高校の部 6 区間

順位

一般・大学の部

- 1 沖電気宮崎(宮崎) 1° 44'42"
- 2 京都産業大学(京都) 1° 47'19"
- 3 天満屋(岡山) 1° 47'29"
- 4 日本生命(大阪) 1° 47'37"
- 5 九電工(福岡) 1° 48'37"
- 6 京セラ(鹿児島) 1° 48'48"
- 7 十八銀行(長崎) 1° 48'56"
- 8 岩田屋(福岡) 1° 49'17"
- 9 ラララ(熊本) 1° 49'40"
- 10 デオデオ(広島) 1° 50'08"
- 11 ベスト電器(福岡) 1° 51'38"
- 12 丸久(山口) 1° 51'53"
- 13 NEC九州(熊本) 1° 54'22"
- 14 TOTO(福岡) 1° 56'55"

区間賞

- 第1区(4.5km) 藤川 亜希(ラララ) 13'32"
- 第2区(5.9km) 浦 紀子(十八銀行) 18'51"
- 第3区(5.1km) 永山 育美(京セラ) 16'03"
- 第4区(5.9km) 大宅 美鈴(沖電気宮崎) 19'26"
- 第5区(11.4km) 川上 優子(沖電気宮崎) 35'44"

高校の部

- 1 西京(山口) 1° 48'40"
- 2 筑紫女学園(福岡) 1° 49'33"
- 3 神村学園(鹿児島) 1° 50'01"
- 4 諫早(長崎) 1° 50'30"
- 5 近畿大付福山(広島) 1° 51'16"
- 6 熊本市立商業(熊本) 1° 52'07"
- 7 九州国際大付(福岡) 1° 52'36"
- 8 山田(高知) 1° 52'56"
- 9 松山商業(愛媛) 1° 53'46"
- 10 柳川(福岡) 1° 54'36"
- 11 白石(佐賀) 1° 55'28"
- 12 豊見城南(沖縄) 1° 55'30"
- 13 宮崎工業(宮崎) 1° 57'32"
- 14 就実(岡山) 1° 57'46"
- 15 北九州市選抜(福岡) 1° 57'50"
- 16 八頭(鳥取) 1° 58'03"
- 17 大分東明(大分) 2° 05'35"

区間賞

- 第1区(4.5km) 藤永 佳子(諫早) 13'39"
- 第2区(5.9km) 長尾 育子(筑紫女学園) 19'15"
- 第3区(5.1km) 田橋 里花(筑紫女学園) 17'10"
- 伊藤 絵美(西京) /
- 第4区(5.9km) 藤井 幸子(西京) 20'23"
- 第5区(4.9km) 山口由香里(神村学園) 16'51"
- 第6区(6.5km) 山本奈美枝(西京) ★19'59"

★は区間新



2区で高校生を含めて6人抜きを演じトップに立つ沖電気宮崎・岡本幸子

一般・大学の部

全日本2連覇の沖電気宮崎が独走で3連覇

スタート直前からの雨が時折激しく降るなか、前年12月の全日本実業団女子駅伝を2連覇した沖電気宮崎が2区の岡本幸子でトップに立ち、その後は後続を引き離してゴール、3年連続5回目の優勝を飾った。競り合いに備えてアンカーに川上優子を配した沖電気だったが、早々と独走態勢を築き、余裕のゴールで選手層の厚さを見せつけて圧勝した。

1区の上妻知美は5位と出遅れたが、2区の岡本が久々に存在感を見せつける快走。高校生を含めて6人抜きを演じ、4km地点でトップに。3区の山元愛も堅実につなぎ、4区の大宅美鈴、最終5区の川上が連続区間賞。2位に2分37秒の大差をつけて3連覇を達成した。

ライバルと目された京セラは1区で沖電気と1分27秒差と出遅れた。里村桂、永山育美の中盤で盛り返しを図ったが、2人でわずか14秒しかばん回できず、沖電気の独走を許した。

京産大は佐野光代、柴田郁のスピードランナーを後半に配した追い込み型の布陣が奏功、4区で3位に浮上すると、アンカーで先行する天満屋をかわして2年連続の2位に食い込んだ。

岡本幸子・沖電気宮崎2区 「去年は故障で出られなかったから頑張りました。川上(優子)ばかりに負担はかけられません」

川上優子・沖電気宮崎5区 「なぜ強い? 自信を持って言えることはチームワークの良さかな。でもトップにおぼれず、いつもチャレンジする気持ちが一番大切です」

高校の部

都大路2位の西京が2回目の頂点 筑紫女学園とのアンカー勝負制す

全国高校駅伝2位の西京が4区で逆転、筑紫女学園を振り切り、3年ぶり2回目の優勝を飾った。

1区は諫早の藤永佳子が2位に13秒差のトップでタスキ渡し。2、3区も諫早がトップを守ったが、筑紫女学園が長尾育子、田橋里花の連続区間賞で2位へ。

4区はめまぐるしく首位が入れ替わった。筑紫女学園の有田美越子が3km付近で諫早をかわして先頭に。しかし、中継所で3位だった西京の主将・藤井幸子は諫早を抜き去った後、5km付近で筑紫女学園の有田もとらえて、一気にトップを奪った。

西京は追い上げてきた筑紫女学園とほぼ同時に最終6区にタスキを渡したが、山本奈美枝が区間新の快走。最後は筑紫女学園に53秒差をつけてアンカー勝負を制した。

藤井幸子・西京4区 「後半は下りが多かったので一気にいいと思った。リズムに乗って走れた」

山本奈美枝・西京6区 「みんなが流れを作ってくれた。来年もまた、いいチームが出来るんじゃないかな」

平野忠彦・西京監督 「藤井(幸子)はすごい。冷静に展開を読みながら、後半に追い上げてくれた」



6区で区間新記録の快走を見せた西京・山本奈美枝